

第4回の委員会（H24.9.28）から

## <話題提供>

### ●杉本委員（篠山市ボランティア連絡協議会）

篠山市及び自身のボランティア活動の歴史を中心に、ボランティア連絡協会や自身が現在も取り組んでいる給食ボランティア、阪神淡路大震災やその他の災害での支援活動、ボランティア団体が抱える課題などを説明。

- ・ボランティア連絡協議会（丹南）は平成2年に設立
- ・ボランティア連絡協議会では、篠山市民プラザへの登録、ボランティアフェスティバルの開催など、活動内容のPRやネットワークの構築に努めている
- ・課題はボランティア仲間の高齢化と後継者不足
- ・若い世代と一緒にボランティア活動を盛り上げるために、高校生の参画も考えている

### ◇質疑応答

<ボランティア連絡協会の中に有償ボランティアはあるか？>

- ・ボランティア連絡協議会に有償ボランティア的な組織（例えばお風呂掃除1回100円程度）は1つある。

<委員からの感想・提案>

- ★その程度の金額であれば、有償の方が頼みやすいといった声もある。

### ●波部委員（篠山音楽協会）

篠山音楽協会の活動状況を中心に、協会が過去から取り組んでいる事業や新たにに取り組んでいる事業、音楽団体が抱える組織運営上の課題について説明。

- ・音楽を通じて地域住民の情操と教養を高めるとともに音楽文化の豊かな発展に寄与することが目的
- ・諸団体との連携、学生・生徒・児童の活動への協力、後援を実施
- ・「日本の童謡・唱歌をひろめる会」や『第九の会 in 篠山』実行委員会」設立など、新しい企画に取り組んでいる
- ・団体数の減少、新団員の加入が少ない等の課題を抱えている
- ・音楽に限らず、小・中学校、高校時代の体験が今後を担う大きな力となり、後継者が出てきてくれるのではと思うが、現在の小・中学、高校の世代はどうなのかと考える。

### ◇質疑応答

<音楽団体の内情は？>

- ・高校でクラブ活動が盛んだった世代が50歳代より上になっていて、そこから下

になると活動が鈍ってくる傾向がある。

<音楽活動の資金確保？>

・各団で、団費を中心に団員が負担し、自主経営に努めている。

<民謡等古き良きものを守る活動は？>

・民謡等古き良きものを守ることは、篠山市文化協会でも考えられているようだ。音楽協会も文化協会とタイアップして、郷土のうたまつりを企画。そこではデカショ節や各地の民謡、童謡などが歌われる。

## <意見交換>

<プランの内容について>

A-1 資料2で自治会とまちづくり協議会のことに触れている点について、「自治会に委託している業務は、基本として行政がすべき業務を委託している」とあるが、この中にも協働でできることがあるかを検討していく必要があり、あえて表現する必要はないと考える。自治会に委託している業務の中の協働について今後検討していく必要があると思う。

<ボランティアの多様化について>

B-1 地縁型のボランティアはどこも人数が減っている。高齢化の進行によるものと、従来ボランティアが行っていた介護関係の事業も社会福祉法人やNPO、企業が行うようになった。一方で子育てのなどの分野では新しい団体が誕生しているが、そういった団体は社会福祉協議会の枠の外で活動していることが多い（企業の森林ボランティアなども従来の社協の枠組みだけではとらえられない）。

在来のボランティアグループに人が集まらないことと、ボランティア活動をする人が増減していることとは違うと思う。

ボランティアの多様化、地域の枠を超えた広がりにより様々な活動が行われているように思う。

B-2 ベトナムから篠山に来ている女性で、篠山の企業で3年間の研修に来ており日本語も話せる。月に2日ほどボランティアをしたいと相談にきたので、特別養護老人ホームを紹介した。最初は1人だったが、今では友達と3人で参加している。施設では入所者も職員も喜んでいる。

<ボランティアのネットワークについて>

C-1 東日本大震災以降に市では市民ネットワークが発足したが、活動の趣旨がはっきりしておらず、いろんな組織が課題を出し合うだけの会でうまく機能していなかった印象がある。その際にボランティア連絡協議会などとの連携の議論が出来ていれば広がりもでてきたのではと思う。

C-2 市民ネットワークについては、今後どのような形で活動していくか検討中。今

回はボランティアのバスを出すことが支援活動の中心になっていたため、肉体労働が中心で、ボランティア連絡協議会の活動とは少し内容が異なる。

今年度はバスを4回出す予定にしているが、それ以外に5月の連休に被災地から女子ソフトボールのチームを招き、交流試合を行った。

篠山・丹波の団体によって福島の子どもを招き、外で気兼ねなく遊んでもらえるような活動をしている例もある。

今後、バスを送り込むだけでなく、せっかくいただいた支援金を活用し、効果的な補助事業を検討していく方向である。

C-3 市内のNPOで福島の子どもたちを迎えるキャンプがあるが、これにもいろいろなボランティアが関わっており、ボランティアには専門性も持っている組織もある。そういったボランティア団体を登録制にするなど、既存のボランティア団体とそれらの団体の整理ができれば活発化につながるのではないかと。

C-4 神戸復興塾では、毎月1回、神戸、阪神から現地に入っている組織やマスコミが集まって、過去1ヶ月の報告と今後の予定、協力の在り方の検討を行う打合せの会を開いている。

また、加古川のNPOが持続的に活動を続けている。行政が行っても長期的な支援は難しいが、信頼関係で結ばれた市民組織同士が仲間としてやっている。

#### <専門性を活かしたボランティア活動>

D-1 東北に関して言えば、最初は泥かきから始まり、一段落すると専門的なボランティアの活動の場が増えてきた。そうなれば、地縁的な組織でのボランティアでは資金的にも人材的にも厳しくなってくる。一方で、子どもたちを対象にしたものや先方の産物をこちらで販売するなど、いろんな形で専門性を活かした活動があちこちで行われている。

神戸市もボランティアを支援するファンドを持っているが、地縁系の団体が申し込んでも採択されない場合が多く（特技が少ない）、先方で被災した芸術家や芸術活動を資金面やノウハウの面でサポートしているなど、専門性を持っている団体が求められている。

#### <災害時のボランティア活動支援>

E-1 震災当初、資金面で困っていた団体も多かったと思う。

公募による活動募集もいいが、震災が起きた直後などの緊急の場合は、簡単な手続きによって早期に資金を得られ、現地に派遣できるシステムがあればと思う。平時にこのようなシステムを構築しておけば、緊急の場合に対応できるのでは。

E-2 今回は国の「新しい公共支援事業」があり資金確保できた例もあるが、なかなか難しい問題。「何かあった場合はこれだけ寄付をお願いします。」と、企業などに枠を用意してもらい、大きな災害で緊急に資金がいるときにはその枠が活用できるように検討していたが、頻繁に災害が来ると資金を使い切ってしまうのでそ

れも難しい。

<音楽団体の実情>

- F-1 篠山の音楽は盛んで、数も多く層も厚い。しかし内情は若い人がおらず、後継者がいないという課題を持っている。
- F-2 高校でクラブ活動が盛んだった世代が50歳代より上になっていて、そこから下になると活動が鈍ってくる傾向がある。

<古き良き文化との融合・新しい取り組み>

- G-1 小学校の運動会で民謡を踊ることも減ってきており、古き良きものが無くなるのは残念。デカンショ節とのコラボや、合唱団でデカンショを現代風にした発表などはないか？
- G-2 民謡等古き良きものを守ることは、篠山市文化協会でも考えられているようだ。音楽協会も文化協会とタイアップして、郷土のうた祭りを企画。そこではデカンショ節や各地の民謡、童謡などが歌われる。
- G-3 第九などのイベントは、みんなが集まる機会を作り、地域を元気づけていただくことはありがたい。

<公共的活動としての文化活動>

- H-1 芸術文化団体は、もともとは自分の趣味、自己完結型の組織であったかもしれないが、童謡唱歌の会などは高齢者の健康づくり、コミュニティの増進などの公的な役割を担うようになってきている。  
文化芸術活動団体が福祉団体への慰問など、自己完結型から公共型への転身、活動の拡大に注目していきたい。
- H-2 高齢者や中年以後に転入してきた人にとって、歌の会は交流の輪に入りやすい。目には見えないが大きな効果である。

その他

次回（第5回委員会）は、先進地視察  
訪問先：朝来市

## 第5回の委員会（H24.10.25）から

### 委員会の概要（視察以外）

#### 活動団体へのアンケート実施について

- ・現在引用している住民意識調査は篠山市総合計画策定基礎調査からの抜粋（併せて県の県民意識調査も用いている）であるが、具体的な事業提案のデータはない。今後の具体的な提案の議論が有意義に展開するように、委員会と並行して活動団体へのアンケートを実施する。
- ・アンケート案は学識者、行政関係者及び事務局を中心に作成。  
委員会の了解のもとで調査を実施 → （当日了承を得る）

視察研修 兵庫県朝来市役所（朝来市和田山町）

対応 朝来市 市長公室 小島次長（兼総合政策課長）

市長公室 まちづくり課 一ノ瀬主幹、馬袋副主幹

#### (1) 説明概要

- ・高齢化の進行、職員の減少、行政ニーズが多様化するなかでの地方分権、自治体内分権の実現を模索している最中
- ・朝来市の総合計画を推進する地域協働の仕組みづくりに着手（地域自治システム）
- ・新しい仕組みづくりの検討のため「分権社会システム懇話会を設置」（H17・18）
- ・補完性の原則によるまちづくりを実践するために「地域自治協議会（当市のまちづくり協議会 以下「自治協」）」を設置
- ・地域協働の基盤が自治協であることを制度的に担保するものとして「地域協働の指針」の策定や「自治基本条例」へも地域を代表する組織として自治協を明記した。
- ・地縁型組織のほかにボランティアやNPOなどのテーマ型組織も公益活動に取り組んでいることから、それら団体の支援策等についての検討が始まった。（第3次分権型社会システム検討懇話会 H23.24）
- ・課題は事務事業の地域への移行  
買い物支援や文化講座、学童保育など自治協には公共を担ってもらっている。事務事業を地域に移行することで、参画する市民を増やす・参画する仕組みをつくるといったことを目的に事業仕分けを行っている。（既にゴミ集積施設整備や防犯施設整備、緑化等整備事業は地域へ移行）

#### (2) 質疑（「→」以降は回答）

##### ① 自治会と自治協との関係性

- ・自治会と自治協との関係は？

→ 自治協を設立する際に概ねのスタイル（自治会と自治協の関係）の案を説明したが、最終的な決定は各自治協の判断になる

→ 自治協ができて行政のスタイルが自治会を単位にしている点などの課題は残っている（災害時の対応など、実際に機能しなかった経験がある）

② 行政との関係

・支所との関係は？

→ 各支所に「地域振興課」があり自治協を担当。また、各自治協に3名程度の支援員を配置している（社会福祉協議会も地域担当制を導入）

・自治協の事務員雇用への支援は？

→ 自治協へ事務員雇用の経費として交付金に180万円を算入。各自治協で2～3名程度の事務員を確保している

・財政的支援は？

→ 400万円から1,000万円が交付金として支給。計画に沿っていれば繰越することも可能

③ テーマ型組織との連携

・NPOやボランティア団体等との連携は？

→ 自治協との連携は取れているが、テーマ型組織との連携は取れていない。  
第3次分権型社会システム検討懇話会（H23.24）答申に盛り込む予定

④ 協働のルール

・新しい公共の実現では行政の下請けではダメ。対等の関係性が必要

→ 単なる下請けではなく、地域の生活向上やサービスの充実、住民の自己実現等に反映するものとして行政施策を受託するには、住民の自立も必要になる。（住民にとっては「受託しない」のも選択の一つ。【強制ではない】）

⑤ 指針の活用

・指針の活用は？

→ 職員向きに協働の視点を入れて事業評価を実施しているが、協働に対する職員の意識が高いとは言えず、事業評価での協働事業の提案は少なかった。

・指針の評価、検証は？

→ 分権型社会システム検討懇話会がそれに相当する